

四国一の港の 貨物と安全を守る

ガンマン (ガントリークレーン運転士)

とも ゆ き

金子国際ターミナル 初の操縦者
ガントリークレーン

武村倫行さん (三島運輸株式会社)

1976年三島宮川生まれ。三島小→三島東中→三島高校→岡山商科大。
2002年1月に三島運輸(株)に入社し、同年5月にガントリークレーン
操作免許を取得。現在、金子国際ターミナルで荷役に従事する。



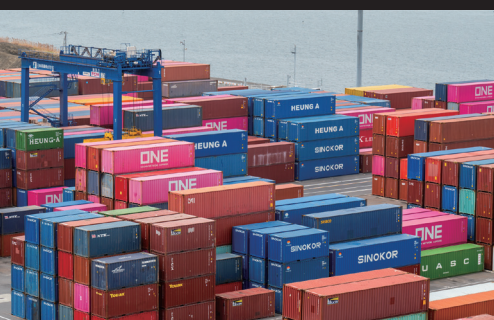
港のDNA

父も祖父も、三島川の江港のクレーンオペレーターでした。そんなクレーン一家に育った私が、三島川の江港にガントリークレーンが設置される18年も前に、ガントリークレーンの免許を取得したこと、そして、最初の操縦者選ばれたことは、祖父からつながる港のDNAのせいかもしれません(笑)。

集中力と危険予知能力

ガンマンに求められる能力は、大きく分けて二つあると私は思っています。

一つは集中力です。ガントリークレーンは、地上約32mの高さにある運転席からガラス張りの床越しに、スプレッダーと呼ばれる吊り具を操作



▲ ガンマンによって荷揚げされたコンテナ

します。コンテナの四隅にある小さな穴にスプレッダーのピンを差し込んで吊り上げるのですが、常に船の傾きの影響を受けるので、操作には高い集中力が求められます。

もう一つは、危険予知能力です。コンテナの周りには、常時6人ほどの作業員がいます。彼らの位置や動きを上空から確認できるガンマンには、現場に潜む危険性をいち早く察知し、事故を未然に防ぐ能力が必要です。

我が子を送り出す

四国一のコンテナ取扱量を誇るこの港は、重要な社会インフラであり、四国の経済活動にも欠かせない存在です。ここで荷揚げされるコンテナは、世界各地から運ばれて

きており、またこの港から世界各地へと運ばれていきます。自分が積んだコンテナが世界を巡っていると思うとワクワクしますし、子どもを海外旅行に送り出す親のような気持ちにもなります。

世界の玄関口で働く

港ではさまざまな職種の人たちが働いています。より多くの方に「世界の玄関口で働く」ことの奥深さを知っていただきたいと、市開催の「みなとウォーキング」というイベントに協力しています。船や倉庫、そしてガントリークレーンを間近で見学できるようなイベントを通して、多くの方に港の仕事を体感していただき、大いに興味を持ってもらいたいのです。



▲ 空中の運転室から操作する